

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年 7月 15日(金)
通算 251号

◇ データで見る【岡崎市の新型コロナウイルス感染症】

今週に入ってから、岡崎市が発表した「新型コロナウイルス感染者数」の数値激増の推移は驚くばかり。この急激な変化をいったい誰が予想できただろう。

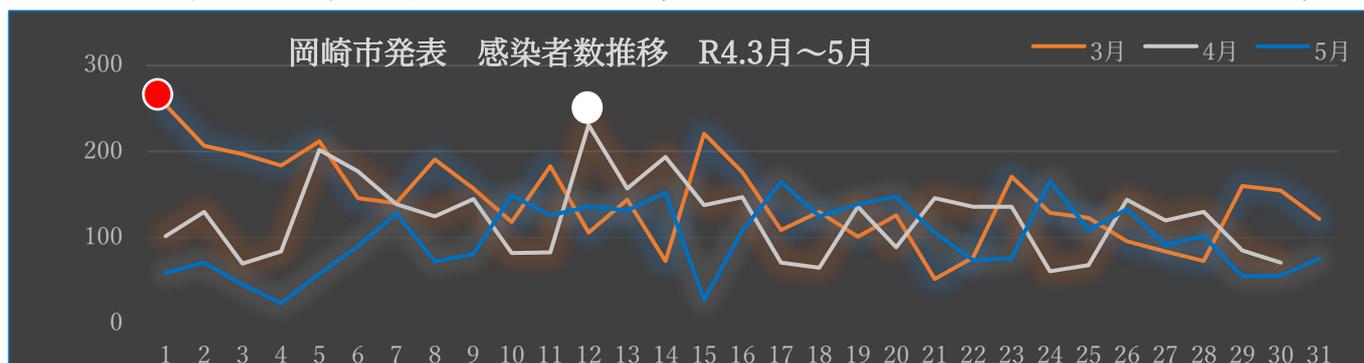


とはいえ、5・6・7月のグラフをよく見てみると、7月に入ってから動きに、その兆候を見ることができるといえる。

3日までの7月の数値は、わずかではあるがいずれも前二月を上回る。4日には、6月に一度しか記録しなかった100人を超え（※ちなみに5月は16日間）、それ以降は立ち止まることなく数値は右肩上がりに。

9日以降は一旦落ち着きを見せたものの、12日(火)には、驚くべき415人という数値を記録した。定説となった「発症2日ないし3日前が感染」を見れば、先週末の土・日での感染拡大が推察される。

ここで過去の感染状態をグラフで比較してみよう。まずは3月から5月の様子。



第6波の下火となった3月の最大数は1日(※●)の254人。200人を超えたのは4日。4月の最大数は12日(※○)の231人。5月は200人すら超えなかった。

さらに前の様子。第5波(※デルタ株：R3.8月・9月)と第6波(※初期オミクロン株：R4.1月・2月)の様子が下のグラフ。



重症者率が高く、それまでのアルファ株やベータ株に比べ『デルタ株は感染力が強力だ』と恐れていた第5波。それでも感染者の最大数は R3.9 月の120人。

そして、ワクチン接種の効果が下がり始めた時期に出てきた初期オミクロン株。第6波は、それまでとは比べ物にならないほどの圧倒的な感染力を備えていた。

重症者率こそ高くはないが、デルタ株と比べると、初期オミクロン株の感染力は驚異的であることが、第5波と第6波を重ねたグラフから読み取れる。

初期オミクロン株時期に岡崎市の感染者が400人を超えたのは2/3の406人、4/4の446人(※最大値)、2/26の423人の3日。それでも、前日から300人に迫るほど数値が跳ね上がった今回のケースとは異なる。

前日比+100人以上は、2/2-3(+142人)、2/7-8(+137人)、2/14-15(+127人)で、今週7/11日から12日にかけての296人もの急増は、過去に例を見ない。

いかに【オミクロン株 BA5】の感染力が強力であるかが分かる。

ほんの半月前までは、政府の意向を受け、学校でも熱中症防止を鑑みたマスク装着について見直しを図ろうと、議論を重ねていたところだ。

【「マスクを外しても構わない」から「マスクを外しなさい」への移行】である。

水曜日には304人。一旦は数値が下がりししたもの、三月以降にはなかった300人以上が2日間続いており、BA5株の感染力が超強力なだけに、今後がまったく予想できない状態にある。ある専門家の予測によれば、8月の1日当たりの感染者総数が14,000人になるとも言われている。

こうした状況を鑑み、学校や家庭、職場は、これまで行ってきた対策を継続するとともに、少し緩んできた「心の紐」を、今一度、固く結び直す必要がある。